

# 小浜 米谷・安倉 エリア

小浜地域は、中・近世に栄えた寺内町の面影を残し、風情ある町並みを楽しむことができます。安倉地域は、高速道路のインターチェンジがあり、宝塚の玄関です。



## 37 とうしやうじ 毫撰寺

じやうどしんじゆほんがんに 浄土真宗本願寺派の寺で「小浜御坊」とも呼ばれている。創建などの詳細は不明だが、真宗寺内町として布教を目的とした防衛的性格の強い寺で、近畿一円に置かれた他の真宗寺院と同様の性格を持つと考えられている。



## 38 きゆうわだけしゆうたく 旧和田家住宅 (市有形文化財)

市内に残る最古級の民家。江戸時代の中頃までに築かれ、角屋座敷などの特徴を持っている。



旧所有者の和田家は代々、米谷村飯野藩の庄屋をつとめ、多くの古文書が残されており、その古文書の一部を展示している。(入館無料、月曜・年末年始休館)

## 40 こはまじゆうくりようかん 小浜宿資料館

小浜地域は15世紀末に毫撰寺の寺内町として発展し、江戸時代には大阪・京都・有馬・西宮を結ぶ交通の要衝であったことから宿場町として繁栄し、酒造りや大工の町としても知られていた。資料館は小浜町並模型や大工道具などを展示しており、併設する企画展示室では宝塚に関する展示を公開している。(入館無料、月曜・年末年始休館)



## 39 くびじぞう 首地蔵



首から上の病気にご利益があるといわれる。「洪水で武庫川の上流から流れてきた」「伊丹の殿様が祀った」などと伝わる。

## 41 あくらたかつかこふん 安倉高塚古墳 (市史跡)

4世紀末頃に造られた円墳。川原石積みの竪穴式石室から赤烏七年(244、中国・呉)の年号が入った銅鏡などが出土。



## 43 かんぶんはちねんどうひょう 寛文八年道標 (市有形文化財)



有馬街道の伊丹と尼崎の分岐点に立つ。通称「姥ヶ茶屋」。寛文八年(1668)の銘は、兵庫県下の道標で最古のものの一つ。

## 44 こはまこうたいじんじや 小浜皇大神社 (県登録文化財・制札：市有形文化財)



あまでらすめおおかみ あめのこやねのみこと 天照皇大神と天児屋根命を祭神とする神社。境内には小浜戎も祀る。

## 42 あくらすみよしじんじや 安倉住吉神社

天長2年(825)の創建と伝えられ、江戸時代にはほんだわけあくらすみよしじんじや 誉田別安鞍住吉神社とも称されていた。誉田別は応神天皇のことで、狩りの際に馬の鞍を休めたところと伝わる。



## 45 いそし わた 伊子志の渡し



西宮街道の武庫川を越えるところでは、江戸時代から大正の頃まで橋がなく、「伊子志の渡し」と呼ばれる渡し舟があった。

## ちよこつとアレイク 4

## たからづかの民話「毫撰寺の亀姫」



戦国時代のある日、豊臣秀吉の養子で跡取りであった秀次が毫撰寺を訪れました。秀次は住職の次女「亀姫」の美しさに惹かれ、側室に迎えることにしました。秀次は亀姫をとて大切に、「小浜の局」と名乗らせ平和で楽しい日々を過ごしました。ところが、秀吉に実子が産まれると、秀吉は秀次の存在を疎ましく思います。その事に気づき不安に思っていた秀次は、ある夜、酒に乱れ通り

がりの人々を切り捨ててしまいました。辻斬りが横行していた京の町の人々は、すべて秀次の仕業と噂します。噂を耳にした秀吉は、これ幸いと「秀次に謀反の疑いあり」と言い、秀次だけでなく亀姫を含め一族の処刑を命じます。美しい亀姫をみた人々は「あれほどの美しい方が哀れなものよ」と嘆願の声をあげました。また、亀姫の実家である毫撰寺も秀吉によって焼かれてしまったのです。